

# 平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

## 1. 学校概要

学校名 和歌山県立田辺高等学校 (※正式名称を記載)  
種 別  保育園・幼稚園  小学校  小中一貫<sup>※注1</sup>  
 中学校  中高一貫<sup>※注2</sup>  高等学校  
 教員養成大学  専修学校、各種学校  
 特別支援学校  
 その他 (例：小中高一貫 )  
所在地 〒 646 - 0024 和歌山県田辺市学園 1-71  
E-mail wada-m012@wakayama-c.ed.jp  
Website http://www.tanabe-h.wakayama-c.ed.jp/high.htm  
幼児児童生徒数 男子 454 名 女子 494 名 合計 948 名  
幼児・児童・生徒の年齢 15 歳～18 歳  
※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

## 2. 報告期間

平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月

※報告書提出時点～平成 30 年 3 月末までの活動は、予定 (見込み) として記載ください。

## 3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

### (1) 活動の概要 (800 字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項 1-1、2-1 に対応

本校では学校全体で、持続可能な開発のための教育 (ESD) の理念を総合的な学習の時間をはじめ教科や課外活動などに積極的に取り入れている。3 年間のテーマとして「温郷知新 ～地元で学び、世界を舞台に活躍できる人材の育成～」(\*温郷知新とは「ふるさとをたずね、あたらしきをしる」という意の本校の造語) と、“Think Locally, Act Globally”を設定している。育む力として郷土への愛着と誇りを高め、異なる文化や価値観を持つ集団の中で認められる日本人としてのアイデンティティを確立し、持続可能な社会づくりに取り組む態度を養うことを目的としている。①地域魅力発見・課題解決探究に係わる活動、②世界遺産の保全と持続可能な質の高い観光地づくりに係わる活動、③多文化共生社会実現に係わる活動を軸に幅広い活動を行っている。

#### ① 地域魅力発見・課題解決探究に係わる活動 (総合的な学習の時間)

入学後すぐ個人単位で「地域の魅力発見」をテーマにフィールドワークや調べ学習とプレゼンテーションを行っている。クラス全員の発表を聞くことで生徒それぞれが考える地域の魅力を相互に知ることができ、地元への誇りを醸成するとともに、調べて発表する楽しさややりがいを通して課題探究へ向けてのモチベーションを高める効果もある。その後、「直面する課題解決にむけて」「地域の強みを活かすには」を大テーマにグループ単位で課題発見・課題解決型の探究活動

に取り組んでいる。田辺市をはじめ地元の様々な組織・企業・商店などの協力と支援のもとフィールドワークを実施し、最終のプレゼンテーションで提案・提言ができることを目標に取り組ませることで、自分が地元社会に役立っている自己有用感を得ることも目的としている。

## ②世界遺産の保全と持続可能な質の高い観光地づくりに係わる活動

(生徒有志による活動)

ここ数年で急増した世界遺産の熊野古道を訪れる外国人観光客に焦点を当てて活動を行っている。まず客観的な知識を得るため、世界遺産と熊野古道、観光開発と環境保全に関連して「持続可能な質の高い観光地」をテーマに世界遺産関係者や田辺市熊野ツーリズムビューローによる講演会、ワークショップを実施している。実際に熊野古道を歩きその中で外国人観光客や地元の人にインタビューなどを行うことを継続的に行っている。活動の中では田辺市や観光協会と連携して外国人観光客に対するアンケートなども実施している。

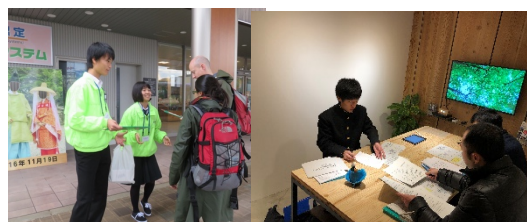
## ③多文化共生社会実現に係わる活動

外国人観光客を対象とした活動や調査の中から、国内に定住している外国出身の観光客が一定数あることが分かり、田辺市を中心に在住する外国人にも焦点を当て活動を始めている。この流れで、本校生徒が企画運営を担う形で、平成29年6月に交流イベント「T-Café ~Tanabe de TomodachiをTsukuro~」を田辺市生涯学習課、国際交流センターとともに開催した。

多文化共生社会の実現に向けて、高校生が地元に住む外国人と地元住民を結ぶ架け橋となり、同時に外国人同士のコミュニティづくりのきっかけとなることを意図してのものであった。出身国を問わず子供から地元の年配の方まで幅広い層の参加者があり、午前は地元の食材を使った梅ハンバーガーやみかんケーキ作りの協働作業、午後は質問ビンゴなどのミニゲームを通しての相互理解などで、大変盛り上がり成功をおさめた。田辺市における多文化共生社会の実現に向けて、一過性のイベントではなく今後も継続してイベントの開催を企画している。



① 地域課題探究発表会



② 世界遺産インバウンド調査



③ 多文化共生社会の実現に向けたイベント T-Cafe

## (2) 活動の詳細

### ① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

#### ア. 活動分野（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 3. 防災	<input checked="" type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input checked="" type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input checked="" type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input checked="" type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他( )		

#### イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入 自己有用感、地元への誇り )	

#### ウ. 活動時間（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input checked="" type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述 )	

#### エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

小林亮(2014)『ユネスコスクール：地球市民教育の理念と実践』  
五島敦子ほか(2010)『未来をつくる教育 ESD 教育 ―持続可能な多文化社会をめざして―』  
日能研教務部(2017)『SDGs 国連 世界の未来を変えるための17の目標』

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

ユネスコスクールの理念を総合的な学習の時間の内容に取り込み、本校の探究的な活動の中核としている。生徒全員が SDGs の理念のもとで様々な探究活動を行うために、適宜外部からの講演やワークショップも採り入れている。このことで総合的な学習の時間をユネスコスクールの活動としている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

探究活動を行うための専門部署(分掌)を設置している。上記②で説明したユネスコスクールの活動を取り入れた総合的な学習の時間は3学年それぞれに担当を配置している。またより発展的な生徒の探究活動をサポートするために、校内で探究活動をクラブに準じる位置づけをしている。教員についても生徒の休日活動に参加する手当(特殊業務手当)の対策を講じている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価(内部/外部)の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。(200字程度)

※チェック事項 1-5 に対応

ユネスコスクールとしての活動は本年度が初年度なので、成果と課題はまだ明らかになっていない。総合的な学習の時間についてはルーブリックの導入を検討中である。またベネッセコーポレーションの Classi(クラッシー)を来年度より年次進行で導入することにより、生徒の活動のリフレクションを充実させ、自己評価・他者評価のツールとして利活用する予定である。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

T-Café での活動報告や、地元新聞社と提携をし教育のページに活動を掲載することで、幅広く活動を理解して頂き、地域から ESD などに関連する活動を紹介して頂くなどして活動の幅が広がってきている。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD 活動支援センター、ESD コンソーシアムとの連携など)  
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

- ・和歌山県世界遺産センターとの協業で、世界遺産『紀伊山地の霊場と参詣道』の道普請活動に参加
- ・田辺市国際交流センターとの協働での多文化共生社会のあり方を考えてのイベント開催
- ・上記以外で、田辺市観光振興課、田辺市熊野ツーリズムビューロー、田辺市産業振興課、田辺市企画振興課とも連携

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

- ・和歌山県内のユネスコスクールとの意見交換
- ・ユネスコスクール加盟の星林高校と協働でのドイツ研修  
(持続可能な多文化共生社会のあり方、持続可能で質の高い観光地づくりについて)(OECD イノベーションスクール事業関係)
- ・SGH 加盟校でユネスコスクールにも加盟している高校との意見交換など。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）  
※チェック事項2-5に対応

・生徒：地域のことを知らずに「何もない田舎で誇りが持てない」というぼんやりとした認識から、地域探究活動を進めることによって地元の魅力を発見し、地元で誇りを持つことや、発見したことを発信するなど良い循環が発生している。

・教員：普段の教科の学習では見せることのない生徒の生き生きとした活動や表情を目の当たりにして、ESD教育に対する理解が広まった。

(3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

・平成29年度に引き続き、在留外国人との交流イベント「T-Cafe」などを複数回開催し、多文化共生社会の実現に向けた生徒・地元の人などの輪を広げる。（田辺市国際交流センターと協業）

・新規事業として田辺市生涯学習課と連携して、生涯学習フェスタへの出展を行い、SDGs・ESDへの理解と協力の輪を広める。（田辺市教育委員会生涯学習課と協業）

・世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」に関係した取り組み（道普請や外国人観光客へのアンケートなど）を継続して行う。（和歌山県世界遺産センターの協業）

・紀南ユネスコ協会や和歌山ユネスコ連絡協議会と連携して、ユネスコスクールの取り組みの普及活動を行う。（総会での発表やイベントへの参加）